

二〇一二年十一月十日、慶應義塾大 学加藤文俊研究室(ゼミ)に所属する 学生ら二十四名が富山市を訪れ、総曲 輪通り・中央通り周辺で働く人びとを 取材し、十七枚のポスターを制作した。 加藤研究室では、「キャンプ」と称して、 一年に二、三ヶ所ずつ全国各地をめぐ りながら、フィールドワークを行って いる。そのまちに暮らす人びとの生活 や暮らしそのもののできる限り近づ き、人びとの魅力を伝えるポスターな どのメディアを制作している。今回富 山で制作されたポスターは、富山まち なか研究室(MAG.net)や富山デザイ ンサロン、富山市内電車内に掲載され、 その後も市内をめぐる。

今回のキャンペーンは、「学生まちづく りコンペティション二〇一二」の審査 員特別幹事業として、株式会社まちづ くりとやまからの委託により実施され ることになった。今年六月から、加藤 研究室の学生二、三名がたびたび富山 を訪れ、コンペティションに向けて準 備やプレゼンテーションを重ねてい た。「たくさんの方々のご協力があっ て、このキャンペーンを実施できたこと をうれしく思う。ポスターを通じたコ ミュニケーションが生まれ、広がりつ つあるのを実感しており、制作してよ かった。」とコンペティションに参加 し、以前にも富山でポスターを制作し た学生は語る。

取材した直後から、ポスターの制作 にとりかかり、翌朝には印刷を開始し、 午後には交流会を兼ねての展示を行 う。現地では取材、制作したものは必ず その場で完成させ、成果物は必ず置い て帰り、ポスターのモデルとなってく ださった方のもとにも届けられるよう にする。フィールドワークで得たもの

を、「まちに還す」ことが、加藤研究 室が全国各地で行っているキャンプの 大きなテーマとなっている。  
(加藤文俊研究室 <http://kfab.net>)



# 富山ではたらく人びとの ポスター制作

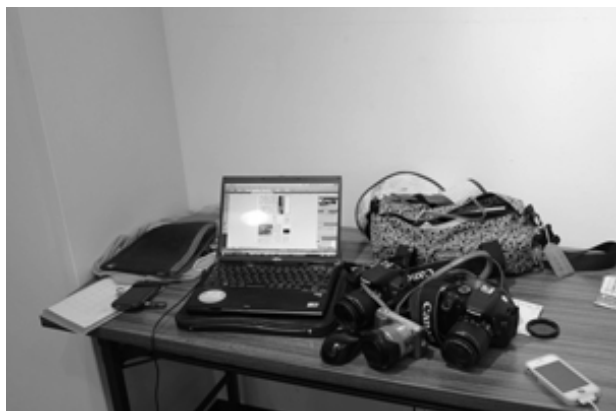


2012年  
(平成24年)  
11月11日  
日曜日

ほくほく編集部  
発行所: MAG.net  
富山まちなか研究室  
編集・発行: 加藤文俊研究室  
OG 森部 綾子

特別号

## いつでも、どこでも!



キャンプの際には、各々がカメラとノートパソコンを持参し、フィールドワークやその後の作業環境を充実したものにす。カメラを持ってどこへでも行き、取材をしたり、五感を最大限活用させて得たものの記録をひたすら残したり、現場から吸収できるだけ吸収していく。そして、アウトプットを残して帰るのである。気になるものがあれば写真を撮る、場所さえあれば、どこにいてもパソコンを開いて作業をする。電源があればなおよし。Wi-Fiがあれば、文句なし。いま、この場所でしかできないことを、するのである。

学生たちは初めて訪れた土地で、初 対面の方々に取材を行う。始めはお互 いに緊張していて、お決まりのお堅い 話しかできないことも多いが、言葉を 交わしていくうちにだんだんと表情も 柔らかくなっていく。生まれ育ったま ち、現在に至るまでの生活や仕事のこ となど、自分の暮らしに身近な部分に そつて、短い時間のなかでふり返りな



## 楽しみながら

がら、思いをぶつけて下さる。生き生 きしたことばと、表情のなかに、その 人自身の魅力が詰め込まれている。そ れをいかに切り取るか、魅力を十分に 伝えるには、どうしたらよいのか、取 材中からその後の制作段階において も、締め切り時間ぎりぎりまで、完成 品のクオリティを上げるべく格闘が続 く。

人の魅力がまちの魅力につながっ ていく。私たちの制作したポスターが些 細な話のきっかけや、何かを思い出す きっかけになって、少しずつでも人の 集まる場所や生まれる会話がが増えて いてほしい。ポスターの中の人には、 そのまちなかで会うことができる。 まちと人との距離が近いメディアこ そ、私たちの作るこのポスターなので ある。

